

乳児ビタミンK欠乏性出血症患児の体重増加率 についての考察—第3回全国調査より

(分担研究： 新生児・乳児のビタミンK欠乏性出血症の予防に関する研究)

沢田 健* 埴 嘉之**

要 約

第3回全国調査(s 60. 1. 1—63. 6. 30)をもとに出生時体重と発症時体重が両者とも記載されているもので発症時日齢が14日以上60日未満を対象として乳児VK欠乏性出血症患児の体重増加率を検討した。(n=146)全体の平均体重増加率は $28.6 \pm 11.9 \text{g/d}$ ($-4.7 \sim 67.2 \text{g/d}$)であった。特発性かつ母乳栄養群(n=105)で体重増加率 20g/d 以下は明らかに体重増加不良といえるものは16%(16/97)であった。したがってほとんどの症例では体重増加率から見る限り乳汁の摂取状況は悪くはなかったと考えられる。本症の特発性・母乳栄養群ではVK予防投与がしてあり体重増加率から見る限り母乳も不足していなかったと考えられる。

見出し語： 母乳栄養，ビタミンK，乳児ビタミンK欠乏性出血症，体重増加

研究 方 法

本研究班の行なった第3回全国調査(s 60. 1. 1—63. 6. 30)の1次アンケート調査をもとにした。

本症の発症要因として母乳の絶対摂取量の不足がVKの欠乏をきたしていることも考えられるので患児の体重増加率をみることによって検討した。

調査用紙に出生時体重と発症時体重が両者とも記載されているもので発症時日齢が14日以上60日未満を対象とした。(n=146)

結果および考察

発症例の体重増加率の分布は表1のようであった。全体の平均体重増加率は $28.6 \pm 11.9 \text{g/d}$ ($-4.7 \sim 67.2 \text{g/d}$)であった。

このうち特発性で母乳栄養群(n=105)のみ図示したのが図1である。

発症時の日齢はさまざまであるが1～2カ月児であることを考えると体重増加率 20g/d 以下は明らかに体重増加不良といえる。この群は図1の特発性で母乳栄養児の場合16%(16/97)であった。したがってほとんどの症例では体重増加率から見る限り乳汁の摂取状況は悪くはなかったと考えられる。

次に表1から特発性+ニアミス例(Hptなどの凝固検査で発見された低値例)で母乳栄養児のみ(n=110)を選びVK予防投与別に体重増加率を検討してみた。VK予防投与有(n=90)では 30.0 ± 11.0 ($1.3 \sim 67.2$) g/d で予防投与無(n=17)では 29.5 ± 12.4 ($-1.4 \sim 47.9$) g/d 、VK予防投与不明(n=3)で有意差はなかった。

つまり本症患児にVK予防投与が少なかったと

* 東邦大学新生児学研究室

** 同 第1小児科学教室

はいえない。

文 献

大部分の特発性・母乳栄養群ではVK予防投与がしてあり体重増加率から見る限り母乳も不足していなかったと考えられる。

- 1) 沢田 健・高橋玲子・月本一郎・埜 嘉之：
厚生省心身障害研究新生児管理班“新生児管理における諸問題の総合的研究研究報告書”
昭61年度，pp. 46-49 (1987)

表1 体重増加率の分布(クロス集計)第3全国調査より (s 60. 1. 1-63. 6. 30)

	特 発 性			続 発 性			ニ ア ミ ス		
	母乳	混合	人工	母乳	混合	人工	母乳	混合	人工
<10 (g/日)	3	1	0	0	0	0	1	0	0
10-20	13	1	2	4	0	0	0	0	0
20-30	37	2	0	9	1	2	4	0	0
30-40	30	2	0	4	0	0	4	0	1
>40	15	0	0	0	0	0	3	2	0
	97	6	2	17	1	2	13	2	1
	105			25			16		

日齢14以上で60日未満，かつ出生時体重と発症時体重が両者共記載されているものを対象とした(N=146)

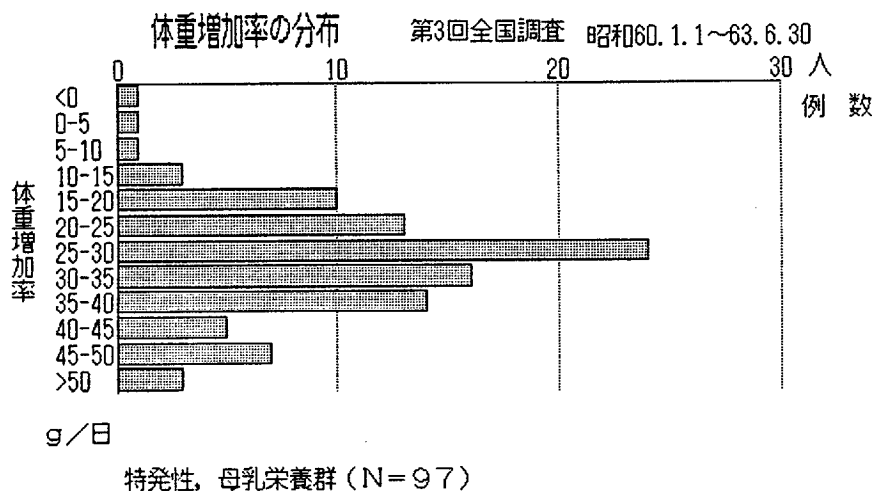
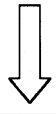
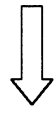


図 1



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約

第 3 回全国調査(s60.1.1-63.6.30)をもとに出生時体重と発症時体重が両者とも記載されているもので発症時日齢が14日以上60日未満を対象として乳児VK欠乏性出血症患者の体重増加率を検討した。(n=146)全体の平均体重増加率は $28.6 \pm 11.9\text{g/d}$ (- 4.7 ~ 67.2g/d)であった。特発性かつ母乳栄養群(n=105)で体重増加率 20g/d 以下は明らかに体重増加不良といえるものは16%(16/97)であった。したがってほとんどの症例では体重増加率から見る限り乳汁の摂取状況は悪くはなかったと考えられる。本症の特発性・母乳栄養群ではVK予防投与がしてあり体重増加率から見る限り母乳も不足していなかったと考えられる。